

特集

8年目、セーレンプラネット

長谷川 哲郎（福井市自然史博物館分館・セーレンプラネット）

1. はじめに

中部支部会として天文教育研究会が開催された会場である福井市自然史博物館分館は、JR 福井駅西口 1 分にある施設です。

指定管理者として運営グループ（福井テレビ開発株式会社、株式会社五藤光学研究所）が 2016 年開館時から 1 期 5 か年運営してきました。また 2021 年から 2 期目の指定管理を受け、今年で 8 年目となりました。

駅前の賑わい作りと伴に、自然史博物館の天文学宇宙領域の社会教育施設として行っていききたことを振り返ります。

2. プラネタリウムとして

ドームシアターと呼んでいるプラネタリウムは、水平 17m のデジタル式（五藤光学製パーチャリウム X）で、4K プロジェクター 8 台を組み合わせ、リアル 8K という解像度を持っています。

一般的なプラネタリウムの映像は 4K オーダーですので、より高精細な風景や座標線、映像番組の放映が可能になっています。

これを用いて、一般放映として、星空の時間、映像の時間、子どもの時間、音楽の時間というカテゴリで番組枠（45 分間）を編成しています。

また平日午前中を主に、学校教育支援業務として学習団体放映も行っており、幼稚園保育所向け「星育」放映、小学校各学年向けの「博物館学習」、中学校向け、高等学校向け、特別支援学校向けなどメニューを揃えています。

星空の時間は「今夜の星空散歩」として、7 名体制で担当毎の個性を發揮しながら、生解説の放映を行っています。

当日の福井での星空を案内し、担当毎に天文トピックも入れながら放映を行っています。



図 1 放映番組のポスター例

映像の時間は、いわゆる配給される天文・宇宙モノから、「ハナビリウム」「チョコちゃんに叱られる」などキャラクター番組を 3 か月ほどのスパンで入れ替えながら、市民の興味関心を高めるラインナップを考えています。

また館独自の地元ネタで構成されるオリジナル番組も制作し、「星々の約束」「ふくいブ



図 2 独自制作番組のポスター例

ルーは語る」「ダイナソーアート」を公開して、お楽しみいただきました。

さらに、館独自で自作制作した番組作りも行っています。特に子どもの時間でのチャレンジは、地元のゆるキャラ「朝倉ゆめまる」と一緒に星空や宇宙を巡る番組や、乳幼児と保護者がベビーカーで入場できる「ベビープラネタリウム」などを企画制作し、参加いただける親子連れが増えています。

3. 博物館の展示として

当館には、福井から宇宙へと同心円でゾーン化した展示展開の常設展示（株式会社丹青社施工）と、多目的室を用いた年2回以上の特別展を行っています。



図3 特別展のポスターと展示展開例

当初は、全科協の貸出しモノを利用したりしていましたが、近年は館独自企画での展示制作と公開を行い、それに係る資料調査や展示表現の研究なども積み上げ、模索しながら開催を継続しています。

その他、週末と祝日に30分ほど展示室をテーマを持って案内する展示ガイド、20分ほ

どのワークショップも行っています。

4. 誘客としてのイベント

ドームシアターでの講演会、コンサート、落語会といった館外の著名な方との協働イベント、また市内博物館連携でのワークショップ開催、公民館主催行事としての出張観望会、小学校から高等学校までの出張講座など、館内に留まらない業務を広報活動も行いながら、サンリオキャラクターを用いた特別展や子どもに合った工作ワークショップなども開催してきました。

また、ドームシアターでのオリンピック・パラリンピックのPVイベント、eスポーツの公式ゲーム戦イベント、NHK福井放送局自主制作の公開イベントといった規模の大きい企画、地元デパート福袋企画としての結婚式、大手民間企業の入社式も行ってきました。

5. おわりに

8年かけ、駅近の博物館として集客を図りながら、天文学宇宙へと誘う社会教育施設として、様々な取り組みを行ってきました。

ここ数年は、コロナ禍での隔席制限や、検温消毒などの徹底など、お客様の安全と利便性を損なわないよう進めてきました。そして北陸新幹線の福井延線開業を目前にして、更なる誘客集客を求められる中、一過性のイベントごとで完結とにならないよう気を付けながら、市民への教育普及や科学的思考の啓発の活動を継続できればと思っています。



長谷川 哲郎